

2023市立池田病院緩和ケアチームにおけるPDCAサイクルの取り組み

課題1 医師、看護師、医療スタッフへの基本的緩和ケアについての教育を行なっていく必要がある

課題2 メディカルスタッフの専門性やスキルがより発揮できるチームにしたい

目標

全体：病棟カンファレンス2回/月、年間24回を目標とする
身体：痛みのアセスメントとマネジメントを適切に行なう。放射線治療や神経ブロックの適応を判断できるようになる。精神：介入症例について精神療法を月16件算定する
看護：学会発表（事例をまとめる）
薬剤部：疼痛治療マニュアルの改訂
リハビリ：緩和介入患者のリハビリ介入率80%を目指す
栄養管理課：月20件の介入

計画 (Plan)

- 回診時に介入対象者がいないか確認。
- 緩和ケアチームカンファレンスでの多職種による意見交換および情報共有。
- 神経ブロック注射・放射線治療の適応を症例毎に深く議論する。そのうえで神経ブロックは年間3例を目安に新規の治療経験を得て、振り返りを行なう。
- 疼痛治療マニュアルの見直し、担当振り分け、加筆・修正、製本、配布、周知

2023市立池田病院緩和ケアチームにおけるPDCAサイクルの取り組み

課題1	医師、看護師、医療スタッフへの基本的緩和ケアについての教育を行なっていく必要がある
課題2	メディカルスタッフの専門性やスキルがより発揮できるチームにしたい

実施 (Do)	<p><u>身体</u> 神経ブロックの適応を判断し情報提供を行った。3件ブロックを行い、1件は予定していたが全身状態悪化のため中止となった。放射線治療については椎体転移が認められた場合、脊髄麻痺の予防や疼痛緩和のため迅速に放射線科との連携を行えた。</p> <p><u>精神</u> 8月：13件、9月：26件、10月：32件、11月：29件、12月：22件、1月：21件、2月：16件、3月：14件</p> <p><u>看護</u> 中学生へのがん教育を3校で行い、その結果をまとめて学会発表を行う</p> <p><u>リハビリテーション</u> 2023年4月1日～2024年3月31日まで、緩和ケアチーム介入件数197件に対し、そのうちのリハビリテーション介入数は148件であった。リハビリ介入率は75.1%であった。</p> <p><u>栄養管理課：</u> NSTや他チーム担当管理栄養士より介入検討患者がいる時は情報共有を行い、緩和ケアチームへ情報提供を行う。病棟担当管理栄養士と介入患者の情報共有を実施、病棟担当者が対応した際も情報共有をして件数につなげる。食思不振などが原因でふくまる食を提供している方も緩和ケアチームへ情報提供し介入検討していただく。</p>
目標達成状況 ・理由 (Check)	<p><u>身体</u> 症例ごとに神経ブロック、放射線治療の適応を考えるとうまくできており、放射線科、麻酔科との連携がスムーズになったと感じている。神経ブロック年間3例は達成できたが、他に全身状態悪化のために中止になった症例や、オピオイドでコントロールできた症例などがあった。</p> <p><u>精神</u> 16件が達成できていない8月、3月を除きチーム加算件数の平均は5.3%。よって月16件算定するには緩和ケアチーム加算は月302件必要となる。よって月22日が稼働日とすれば1日あたり13.7件の介入件数が必要となる。</p> <p><u>看護</u> 第38回日本がん看護学会学術集会にて「専門看護師が行う中学生に対するがん教育の実践報告」ポスター発表</p> <p><u>リハビリテーション</u> 目標の「緩和介入患者のリハビリ介入率80%」に対して、結果75.1%となり未達成であった。緩和委員として科内への周知や情報の取り方に改善の余地があった。</p> <p><u>栄養管理課</u> 月20件の介入 →2023年度は月平均29件だった。2022年度よりも合計算定件数が70件増加した。</p>